

不動産の不思議

学生たちの視点と発見

第465回



田地川 美祐
不動産学部4年

若い世代を中心にサブスクリプションサービスの利用者が増えていく。所有にこだわらず、"適材適所適用"を重視する考え方だ。不動産もその傾向がある。

コロナ禍や働き方の多様化によって、生活や仕事の拠点を限定しない暮らしが可能になったことが背景にある。例えば仕事面ではノマドワーカー、居住面では特定の住所を持たないアドレスホッパーの暮らしがある。

一方、"持たない"暮らしは長寿社会で重要性を増すリバースモード。年間に1回はトップシーズンの1週間を利用する年次交代型、購入した不動産所有権に与えられるポイント

トを使って任意の場所を利用することになる。アドレスホッパーの暮らし方は、住宅で資産を形成して老後の生活の安心を図ることができない課題がある。

課題解決にタイムシェアが有用ではないかと考える。特定の拠点を持たないアドレスホッパーも資産を形成する拠点として住宅を所有する方法だ。

タイムシェアはコンドミニアムな

活動を実現しながら、所有する不動産で資産の形成が可能となる。一つの住宅を特定多数や不

多様な暮らしと資産形成の両立

どの所有権や使用権を1週間単位で所有して利用するもので、複数人で不動産を所有し、1年のどの週を所有するか定めて登記をする。利用方法に、年間の特定された1週間を使用する固定週型、一定の幅のある期間の中から1週間使う固定期間型、

できない問題もあるが、ライフスタイルの多様化や老後の安心確保には戦略的に対応していくしかなければ

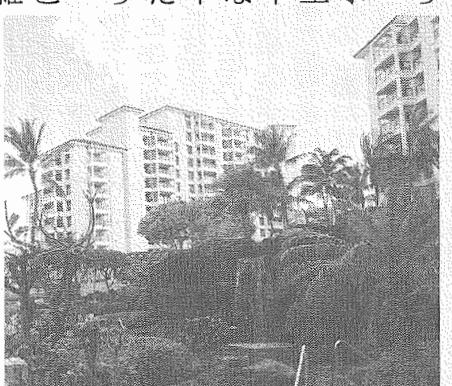
知らない。2月にハワイに海外研修に行く。その中で、日本と

アメリカとの不動産や暮らしに対する考え方を比較したい。

【教員のコメント】

【教員のコメント】

タイムシェアは海外の観光地で使われる制度である（写真）。多くの人を観光地に呼び込む戦略の一つだ。立地や動機は異なるが、多様化する生活スタイルの受け皿として、日本の住宅でもタイムシェアの需要があるのではないか。経営管理人や登記の問題など、今の制度では対応



海外観光地のコンドミニアムではタイムシェアがよく使われている